

表紙のイラスト

とちぎ障害者プラン 21 (2021~2023) の表紙は、栃木県那珂川町にある認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館が監修し、イラスト：飯山太陽さん、デザイン：梶原良成さんによって作られました。

イラストを作成した飯山太陽さんの言葉です。

『僕には専門的な美術の知識が全くありません。自分が楽しいと思える気持ちに身を任せ作品作りをしています。それは、時間をかけ頭の中で撮り溜めた想像で作る作品、描いている時の「気持ち」をそのまま描き写す作品、逆に気持ちを無にして、「音」や「匂い」「感触」を感じながら突発的に作る作品など、様々な方法で作品を描いています。

僕は障害を持っています。文字があまり読めなかったり、記憶が弱かったりで、昔から落とし物・なくし物名人でした。中学から支援学級に入ったのですが、「障害」と言う肩書きがついたことによって辛い経験をしたこともありました。文字が読めず、短期記憶が弱い「僕」は生まれた時から何も変わっていないのに「障害」と言う肩書きがつくと見る目が変わってしまうのかなと中学生ながら切なく感じていました。

せっかく「障害」と言う肩書きを背負って生まれてきたのだから、胸を張って生きようと思いました。そして僕にしか作れない作品、音楽をありのままに表現し、「自分らしさ」を発信していこうと思いました。』

近年、障害者の優れた芸術作品を評価・発掘し、国内外に発信する活動がなされています。

栃木県は、障害者の芸術・文化活動を通じて障害者の社会参加を促進するとともに、県民が障害及び障害者に関する理解を深め、障害の有無にかかわらず共に支え合う「共生社会」の実現を目指します。

